

第134回 秋田県種苗交換会

～先人に学び農業の未来をひらく～

横手に集い 開け未来の 秋田の食



【先人に学び 農業の未来をひらく】

第134回秋田県種苗交換会が、10月29日（土）から11月4日（金）まで、横手市の横手体育館を主会場に開催されました。

横手市での種苗交換会は、平成14年に旧横手市で行われてから9年ぶり、通算12回目の開催となります。今年は「食と農と人」をテーマに、農業の未来を考えるフォーラムや講演会、また農工商フェアなどを通じて、秋田と横手の魅力を県内外にアピールしました。

メイン行事の談話会では、「地域の人と資源を活かす、農業の6次産業化の推進について」を主題に話し合われ、生産者やJA関係者、商工業者ら10人が出席。6次産業化の推進に向け、市場動向を把握する重要性などが討議されました。

また、主会場の横手体育館では、農産物出品展示や学校農園展。協賛第一会場では、農工商フェアや秋田の食をたべ覧会。協賛第二会場では、農業機械化ショーや植木・苗木市など、様々な催しが行われました。

今年も春先の低温・日照不足、また夏場の猛暑などの天候不順により、生育が遅れるなどの影響が見られました。生産者の努力により、2047点の品質の高い農産物が出品。JAあきた白神からも、ネギやキャベツ、生しいたけなど、多彩な農産物が出品されました。

第29回秋田県学校農園展

主会場では、児童らが学校農園などを通じて得た知識や経験をまとめた、第29回秋田県学校農園展が開催されました。

今年は県内の小学校など33校が参加。管内からは、能代市立渟城南小学校、能代市立向能代小学校、能代市立竹生小学校、秋田県立能代養護学校の4校が出展しました。

活動報告では、児童らが作業に悪戦苦闘した様子や、それを乗り越えて収穫した時の喜びなどが描かれていました。

このうち、農業体験活動をまとめた、能代市立渟城南小学校が、審査員特別賞を受賞しました。

